

ひらがなの教え方 — 理論と実践

(財)交流協会日本語専門家
堀越和男

0-1. 入門期に重要なこと

入門期、学習者の言語習得に最も影響を与えると思われる要因

- 目標言語(圏)に対するイメージ
- 学習動機(興味・関心)

考えよう!



中高生にとっての日本語の興味・関心とは？

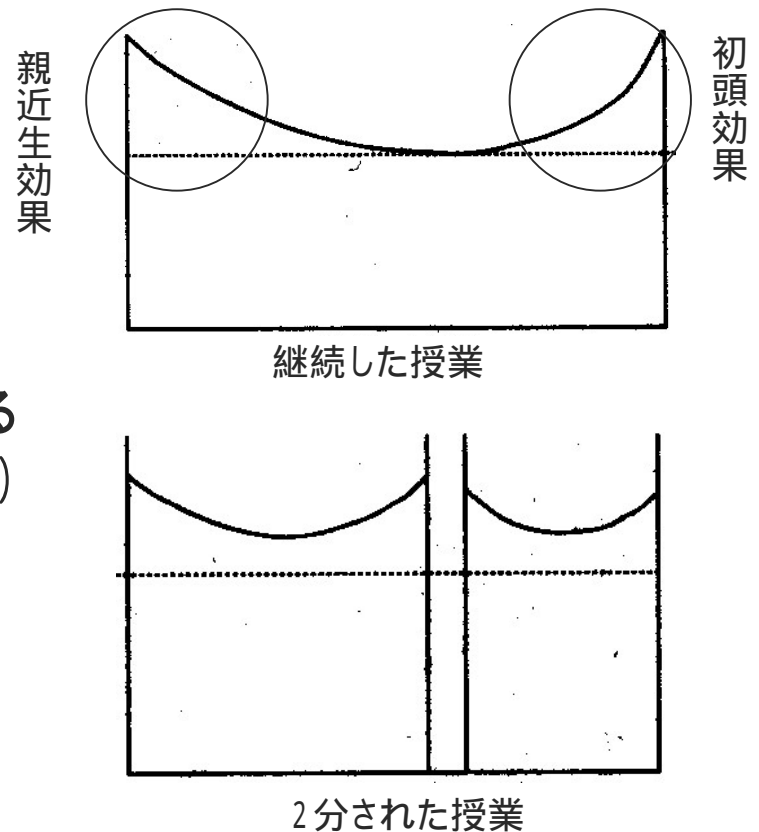
0-2. 記憶のしくみ

- 短期記憶と長期記憶
- 三相の活動としての記憶
「記銘」「保持」「想起」
- 短期貯蔵庫から長期貯蔵庫へ
 1. リハーサル(rehearsal)
 2. コーディング(coding)
 - 体制化(整理して覚える方略)
 - 精緻化(覚えたい事柄に情報に付加して覚えやすくする方略)

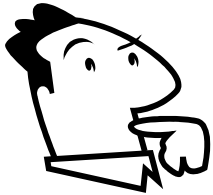
0-3 . 記憶の方法

- 記憶のテクニック
 - 1 . 繰り返す (復唱する)
 - 2 . イメージ化する
 - 3 . 組織化する
 - 4 . 原理 (ルール) を発見する
 - 5 . 意味づける
 - 6 . 概要を把握する
 - 7 . スキーマ (既存知識) を活用する
 - 8 . 複数の感覚を使う (体を動かす)
- 記憶の想起率と授業のあり方
 - 1 . 初頭効果
 - 2 . 親近性効果

図) 記憶の想起率



1. 字形の認識と音声



考えよう！

人は文字を書くのと読むのとではどちらが易しいか？



文字を読めるようにすることが必要

- 文字を読むためには？
 - 〔 字形を認識する
 - 〔 字形と音声を結びつける

五十音の理解

- 五十音の概要について説明する。
- 五十音図を使い、行、段ごとに教師がモデル発音を示したり、ローマ字などを使って日本語の音韻について認識させる。
 - 1 ローマ字表記を使う場合はその発音に注意
- 文字を指しながら、教師のあとについて学生に何度も発音させる。
 - 2 字形の似ている文字(わ・れ・ね等)に注意
 - 3 教師は大きな声ではっきり言う

日本語の音韻の認識

- ひらがなのフラッシュカードにより読ませる。
- 清音が読めるようになったら、次に濁音、拗音、促音、長音を教え、それぞれ単語の中で読めるようにする。

清音
濁音
拗音
促音
長音

フラッシュカードにより単語を発音できるようにする。

- 1 台湾人にとって難しい発音
「た・て・と」と「だ・で・ど」、「か行」と「が行」、長音等
- 2 長音表記と発音の規則

2. 字形の表記

ひらがなを書くための指導法

■ 連想法

漢字(草書体)から平仮名の成り立ちについて理解させる。漢字「安・以等」から平仮名「あ・い等」を連想させる。また、ひらがなの発音と漢字の中国語あるいは台湾語での読み方とを比較させる。

■ 空書法

教師は鏡字、或いは後ろ向きになって空に字を書き、学生はそれを見ながら一緒に書く。

■ 反復法

声を出しながら、何度もノートに書く。

指導の際の注意点

- 書き順
正しい書き順で教える。
- 似ている文字と弁別的特性
似ている文字はどこが違うのか強調しながら教え、弁別的特性を確認させる。
- 文字のバランス
美しく書くために、十字格を使い教える。
- 漢字などによる負の転移
「あ」「た」「め」、「て」と「へ」、「ん」など他の文字に引きずられることがある。

3. 音声と表記の一体化

- 仮名学習の最終段階として音声を聞き、書き取れるようにする。
 1. 教師が一音読み、その仮名を書き取る
(清音・濁音・拗音・撥音)
 2. 教師が単語を読み、その仮名を書き取る
(清音(撥音) 濁音 拗音 促音 長音)
(二拍語 三拍語 ……)

4. 確認テスト

- 五十音空所充填テスト
- 「ローマ字 仮名」変換テスト
- 書き取りテスト 等

5. まとめ

ひらがなの指導において重要なことは、認知心理学や第二言語習得研究の理論的背景に基づき、教師がそれを自分なりに応用し、学生に合った教え方を工夫することである。